

令和3年度尾張旭市介護保険特別会計予算

討論要旨 川村つよし議員

令和3年度は、第8期介護保険事業計画の1年目に当たり、3年ごとに検討される介護保険料の改定、値上げの心配もありましたが、介護給付費準備基金の取崩しを行うことにより、基準額は第7期と同額となりました。

介護給付費準備基金のため込み分は保険料抑制に使うよう、従来から主張を続けてきましたが、今回もその方針を維持していただき、まず、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

尾張旭市の介護保険料について、値上げをしなくて済んだ背景として、今議会の他会派代表質問の答弁では踏み込んだ見解が示されたと受け止めました。当市の介護保険料が他市と比べて抑えられている背景として、当市の健康づくり施策が功を奏しているという考えを、公式見解として断言したのは初めてだったのではないのでしょうか。当市の健康づくり施策が背景にあるのではないかという話は、以前からささやかれていましたし、私も口にしていたましたが、直接結びつけるにはちゅうちょする話だと思ってもおりました。

保険料が安く済む要因として、ほかには必要とされる介護サービスを供給できているかどうか、介護抑制が働いていないかどうか、利用抑制が働いていないか、あるいは施設サービスが不足していないかなども考えられますが、市民の健康づくりが背景にあると断言してしまったことにより、介護保険事業として確認すべきことがおろそかになってしまわないのか、そのような心配もしております。

尾張旭市の高齢者人口は、今後75歳以上の後期高齢者の方たちの比率が伸びていくと思いますが、そうすると介護度が重くなる、今より施設サービスの需要も大きくなる、そのようなことも予想されます。

尾張旭市は、健康づくりを主要施策として、これまで力を入れてきました。市民の皆さんの協力もあって一定の成果につながっているとは思いますが、それを強調するあまり、介護抑制が働いてしまうことのないようにしていかなければなりません。また、介護保険が始まって20年がたちましたが、当初言われていた介護の社会化はどうなっているのか、計画策定の資料として実施されたアンケート結果からも、介護のために離職や転職をされた方がいることも示されていました。

また、施設サービスについても選んで施設に入れるほど入りやすい状況ではありません。導入当初言われた介護の社会化とはほど遠い状態だということを実感し、改善を求めていただけよう求め、反対討論といたします。